opusdei.org

黙想の祈り:聖母の 訪問

黙想のテーマ:「マリアの人生は他者に開かれている」 「マリアは信仰の模範」「マ リアは神への賛美を歌う」

マリアの人生は他者に開かれている

マリアは信仰の模範

マリアは神への賛美を歌う

「そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行っ

た」(ルカ1・39)。受胎告知からほとんど時間は経っていません。大天使ガブリエルはお告げの最後に、すでに高齢であった、従妹のエリサベトが子を宿していることをマリアに知らせます。聖母は、完全に神の手に委ねられている者の覚悟をもって、従姉に同伴するため急いで旅立つことを決心したのです。

マリアは特別な状況でこの旅に出ま す。彼女は救い主の母となることを 知ったばかりです。彼女は、ガリラ ヤの取るに足らない町に住んでい る、普通の少女です。人間であれば 当然、たった今、起こったこと、婚 約者ヨセフが言うであろうこと、両 親や親戚、町の人々の反応など、こ れから起こる試練に集中するでしょ う。しかし、恵みに満ちた彼女の魂 の反応は、まったく違っていまし た。「お言葉どおり、この身に成り ますように (ルカ1・38) と、神に 向かって「はい」と答えたマリアの

行動はすべて、聖霊に導かれています。それゆえ、マリアは急いで山へ向かいます。彼女は従姉を助けたい、愛情を捧げたいと思っています。そしておそらく、神が働いておられる驚異の一端を、理解している唯一の人と話をすることで、彼女自身の幸福を分かち合いたいと願っているのです。

同じように、もし私たちが聖霊の息 吹に心を向けるなら、私たちのキリ スト者としての生活も、他者に対し て、より開かれたものになるでしょ う。徳において成長するための私た ちの努力は、自分自身を中心とする ものではなく、むしろ友愛と使徒職 から切り離せないものとなるでしょ う。そして同様に、祈りにおける主 との親密さは、より洗練された方法 で、すべての人に対して善を行うよ う、私たちを導くでしょう。「この ような精神に満ちた祈りであれば、 一見、個人的なテーマや決心に始ま

るとしても、最後にはいつも、人々 への奉仕について考えることになる でしょう。またマリアに導かれて歩 むなら、私たちがすべての人々の兄 弟であることも実感として受け取る ことができます。私たちはみんな神 の子であり、聖母はその神の娘、花 嫁、母であるからです」団。

マリアはヨハネが生まれる村、エン・カレムに到着します。彼女に致力リアの家に入り、エリサベトをといるでします。「マリアの挨拶を内でいたとき、その出土リサベトが聞いたとき、トは聖霊に満たされ(た)」(ルカ1・40-41)。福音書の中で初めて、私たちは、マリアが御子の贖いのを見まったちは、マリアが御子の癒を対しているのを見まっているの家におけるの来路です。マリアをは、神の恵みの水路です。マリアは、神の恵みの水路です。マリアは、神の恵みの水路です。マリアは、神の恵みの水路です。マリア

は、キリストをその家にもたらしたのです。私たちも信仰によっています。私たちも信仰にいます。「マーカーでは言っていますの数では言っていますの数で、としているなら、恩寵によって、と真似の魂にキリストを生まがまり、聖霊の働きのもとに人々がまるでしょう」
『ジ。

聖霊の働きによって超自然的な喜び に満たされたエリサベトは、喜びを 抑えきれずにこう叫びます。「主が おっしゃったことは必ず実現すると 信じた方は、なんと幸いでしょう| (ルカ1・45)。この言葉は、私たち がマリアの信仰に注目し、マリアを この徳の教師と見なし、私たちが信 仰によって生きることを願うため、 私たちを招いているのです。そうす ることで、私たちは自分の生活の中 にイエスの現存を認めることができ るようになり、イエスと共に歩む者

に不可能はないと確信するようになるのです。

「イエスは一つだけ条件をおつけに なります、信仰に生きよと。信仰が あれば、山さえ動かすことができる のです。世界中に揺り動かしてあげ るべき人が大勢いるのではありませ んか。しかし、まず第一に、己の心 を揺り動かさねばなりませんしょ。 今日、私たちは、聖母に偉大な信 仰、障害にも動じない信仰を求める ことができます。「聖母よ、わたし たちの信仰を助けてください。わた したちの耳を開いて、みことばを聞 くことができるようにしてくださ い。神のみ声と招きを知ることがで きますように。神に従い、自分の故 郷を離れ、約束を受け入れることへ の望みをわたしたちの心に燃え立た せてください | 141。

マリアの謙遜で歓喜に満ちた喜びの歌は、私たちのために神の寛大さの表現しているである。同じように、預言者ゼファニないでは神の父としての配慮を強調の介えられる。主はお前のはお前を事だられる。主はお前のはあれる。主はお前を新たにによってお前を新たに、でして私に関係のなさんに、そして私に関係の

ある些細なことにまで関心をもって名おられます。そして一人ひとりを信のでするのでするのでするでいます。 おいます このもたらする 確信のおいない で、私たちは周囲を眺め、総てのおいるないである。そしてそので、と悟ります」 いいのである、と悟ります」 いいのである、と悟ります」 いいのである、と信ります」 いいのである、と信ります」 いいのである、と信ります」 いいのである

このような態度を養うことは、私た ちが、神から受けるすべてのもの に、常に感謝することにつながりま す。私たちが持っているすべての良 いものを、神の賜物として見るよう になります。そして、自分の生活を 変えなければならないと思うこと で、個人的な努力に常に寄り添って 支えてくれる神の恵みに信頼するよ うになります。その時、私たちはマ リアと共に叫ぶことができるので す。「わたしの魂は主をあがめ、わ たしの霊は救い主である神を喜びた たえます。身分の低い、この主のは しためにも目を留めてくださったか らです」(ルカ1·46-48)。

- [1] 聖ホセマリア『知識の香』145 番。
- [2] 聖ホセマリア『神の朋友』281 番。
- [3] 聖ホセマリア『神の朋友』203番。
- [4] フランシスコ教皇『信仰の光』 60番。
- <u>[5]</u> 聖ホセマリア『知識の香』144 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-seibo-houmon/ (2025/12/15)